

【授業科目】 情報科学 Infomation Science

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
鈴木 真紀子	2年次後期	選択	1	15	講義	あり	巻末掲載	可
授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する フィードバック方法	<p>授業概要／臨床検査について、疑問に思ったことはあるだろうか。検査で陽性な人は必ずその疾患があるのか。検査で陰性な人は必ずその疾患ではないのか。インフルエンザの検査を例にとっても、検査で陰性であっても、後に陽性になることがあるのは多くの人が知っている。検査にはその有効性、信頼性を評価する方法がある。検査を実施する際には、そのことを理解した上で実施する必要がある、検査の評価について講義する。また、検査1つ1つは、多くの医学研究があり開発されてきた。本講義では、研究方法について、研究結果の解釈についても教授する。また、近年の情報科学と臨床検査のつながりについても併せて教授する。</p> <p>課題に対するフィードバック方法/定期試験は解答解説を公開する。</p>							
実務経験に関する 授業内容	病院検査室において検査システムの運用に携わった経験と、企業において研究職に携わった経験を持つ教員が、社会で流用な医療統計学の講義を実学的に行う。							
授業の 位置づけ	<p>本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。</p>							
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	<ol style="list-style-type: none"> ① 研究の種類について理解できる。 ② 統計学的手法を用いて研究を解釈できる。 ③ 検査の有効性、信頼性について理解できる。 ④ 検査方法の評価について理解できる。 ⑤ 現在の医療情報技術について理解できる。 							
時間外学習に 必要な学修内容 および 学習上の助言	<p>臨床検査の評価について及び、医学研究について理解するためにこれまで修得した検査法について、偽陽性、偽陰性について考えてみるとよい。</p> <p>第1～8回事前学習：指定の教科書を事前に読んで学習する（各120分）。</p> <p>第1～8回事後学習：各回の授業内容を復習する。要点をまとめることで確認し、分からなかったところは調べて教員に質問する（各60分）。授業内容に準じた国家試験問題を解き復習することでより理解が深まる（各60分）。</p> <p>※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（2単位15回科目の場合：予習+復習4時間/1回）（1単位15回科目の場合：予習+復習1時間/1回）（1単位8回科目の場合：予習+復習4時間/1回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。</p>							
授業計画	<p>第1回 研究の種類</p> <p>第2回 研究の評価</p> <p>第3回 相対危険度とオッズ比</p> <p>第4回 感度と特異度</p> <p>第5回 検査の評価における様々な指標</p> <p>第6回 医療情報技術 医学医療系</p> <p>第7回 医療情報技術 医療情報システム系</p> <p>第8回 総括</p>						全て 鈴木	
評価方法 評価基準	成績は定期試験100%の評価配分によって判断する。							
教科書	松戸隆之著『臨床検査学講座 情報科学』 医歯薬出版株式会社			参考書等		なし		
関係する 他の科目	プリントを配布する。							
学生への メッセージ	<p>情報を制する者は戦いを制するという孫子の言葉があります。情報には大きな価値がありますが、扱いには十分に気を付けなければなりません。医療現場にもコンピュータは欠かせないものとなっています。学生のみなさんには、情報を扱うことの危険性とその対策を是非しっかりと理解して頂きたい。</p>							